

漢字の学習はじめてのいーっぱい！



静岡県沼津市加藤学園暁秀初等学校教諭

神戸 由美

一 身の回りの漢字

漢字でコラージュ

子どもたちは、看板、標識、雑誌、本など、日々の生活の中で、たくさんの漢字にふれています。一年生が、授業で漢字の学習を始めるにあたり、今まで何気なく見ていた漢字を意識して見てほしいと思いました。そこで、授業では、漢字を探ことから始めました。材料は、さまざまなものがありますが、手軽に切り取れるという点から新聞広告を選びました。広告の中から、漢字を見つけて切り取り、別の紙に綺麗に貼ります。カラフルな広告、子どもが切り取りやすい大きめの漢字のある広告を選びました。広告の中に、授業で扱うのに不適切なもの

がないかどうか事前にチェックしました。これは、片仮名でもできます。(二〇〇一年六月 一年生で実践)

二 鉛筆以外で漢字

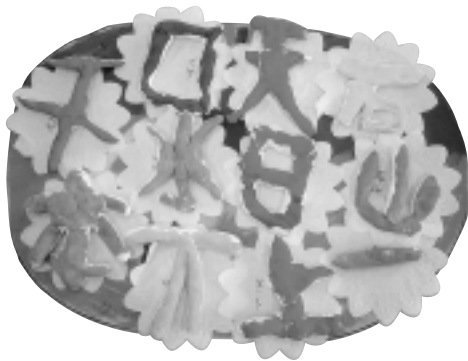
低学年の子どもたちは、鉛筆を使って字を書くことに徐々に慣れてきます。その一方で、筆やクレヨンを使って鉛筆よりも大きく大胆に漢字を書く経験、手のひら全体で漢字を作る経験を十分にすることも、この時期の子どもにとって必要なことでしょう。そのいくつかをご紹介します。

カラー砂でベタッ

これは、子どもたちに人気。12cm×15cmくらい、画用紙程度の硬さの紙を用意。それに、まず鉛筆で漢字を書きます。その上から液状のり(スティックのりより液状のりをお勧め)でなぞります。それを、カラー砂の入った入れ物にベタッとくっせます。綺麗に完成！子どもはこれが大好き！平仮名や片仮名でもできます。(二〇〇一年六月 一年生で実践)

紙粘土で「漢字クッキーを持ってピクニック！」

紙粘土で漢字を作ります。7cm四方くらい。乾いたら

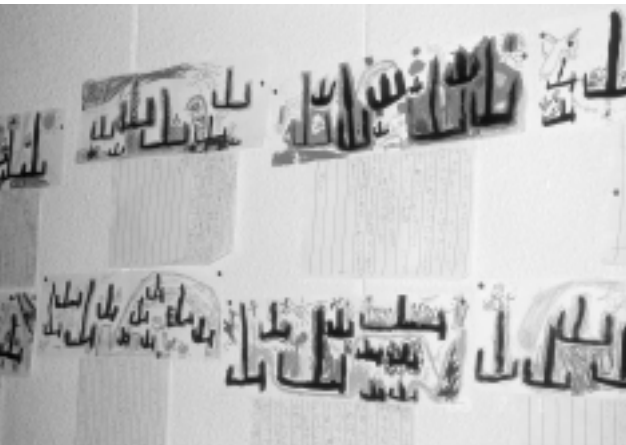


色を塗ります。これを漢字クッキーと命名。漢字の読み方を市販の薄い紙のコースターに書きます。コースターの上に漢字クッキーを載せるとできあがり。コースターの上にクッキーを載せるたびに、漢字とその読み方を結び付ける練習になります。クッキーを入れる箱

を用意し、その中に漢字クッキーを入れると最高。それを持ってピクニックに出発。ピクニックの途中で漢字クッキー、おやつの時間！(二〇〇一年六月 一年生二十九名で実践)

絵の具で漢字アート

漢字のいくつかは、絵からできています。そのことを、教師の「説明」でなくわかってほしいと思いました。そこで、まず、たくさんの「山」という漢字を、絵の具を使い、筆、割り箸、スポンジ、ストロー、布、指で画用紙に書き



ました。その後、自分の書いた漢字の「山」を利用しながら、高い山、平べったい山、とがった山、丸い山など、さまざまな形の山の絵にしました。山の周辺には、動物などの自分が想像したものも描きました。絵を描いた後、その絵から想像したお話を書きました。『漢字の絵本 こわい山、やさしい山』(小学館 一九九五年)は参考になります。(二〇〇二年六月 一年生三十四名で実践 <http://www.katoh-net.ac.jp/Elementary/Class/1Rkanji/kanji.html> で作品公開中)

三 この漢字は、この時期にやりたいな

漢字の学習は、教科書に出てくる順番に扱いがちです。でも、どの時期に、どの漢字を学習すると、子どもたちの生活と離れることなく学習できるのでしょうか。

梅雨の時期に「雨」

梅雨の時期、雨で外に出られない日に「雨」の漢字を学習しました。まず、『あめふり』（福音館書店 一九八七年）を読みました。これは、ばばあちゃんシリーズ

の中の一冊です。その後、写真にあるような作品を作りました。このときに、「雨」という漢字の正しい書き順を教えました。雨粒型の紙に「雨」という漢字を、青ペンや青い色鉛筆などで書いて、雨の感じを出していました。（二〇〇二年六月 一年生三十四名で実践）

夏はやっぱり氷でしょ

夏になると喫茶店の店先にひらひらと風になびく「氷」のれん。子どもたちとこの「氷」のれんを作りました。水と氷という漢字の書き順を教え、ノートに練習した後、「氷」のれんを作りました。布を用意し、アクリル絵の具で書きました。夏休み前の暑い日、外でのれんをなびかせ、もちろんかき氷を作って食べました。（二〇〇一年七月 一年生二十九名で実践）

